城東 Joto 未来
令和8年5月8日発行
第2号
都立城東特別支援学校長
秋本 友美

安全・安心の基礎を築く

校長 秋本 友美

風薫5月。子供たちも大人（保護者の方も教職員）も、新しい環境・新しいスタートの中、緊張や疲れを調整しながらも、少しずつ慣れてきた兆しがみられる頃でしょうか。

さて、今号は学校経営計画の柱の一つでもある❶「実際を想定した各種訓練の実施」❷「防災・防犯・校内事故の未然防止」❸「対応力の向上」を示した所以をお伝えします。

始業式前までの期間に、教職員はルールやマニュアル（知識・理解）を再確認しました。
例えば、スクールバス等の送迎時や教室移動時の体制を皮切りに、随時、裏面のように様々な機会を捉え、上述❶❷→❸を確実なものにしようとシミュレートを重ねています。

① 「形骸化が事故につながること」例えば、「赤信号は止まれ」の交通ルールがあり、内容を理解し履行するからこそ「安全・安心が担保されている」こと。

②「想定外を想定内にすること」つまり、「事故につながるかもしれない、被害が大きくなるかもしれないと予測する」こと。この❶❷の危機管理センサー発動が「カギ」です。

一方、「正常化バイアス」という言葉があります。多少の異常事態が起こっても、それを正常の範囲内として捉え、「大丈夫だろう」と心を平静に保とうという働きです。さらに「同調性バイアス（集団と異なる行動をとりにくい心理）」が加わると、違和感・危機感があっても「周りが言ってないから大丈夫だ」と思い、危険の増幅につながります。

いざという時、正常化バイアスや同調性バイアスに陥らぬよう、教職員全員が適度な緊張感を常にもち訓練やシミュレートを行うなどして**子供たち・大人の「対応力」の向上**に努めてまいります。御家庭でも学校での学びを話題にし、共に取り組んでいただけますよう、お願いします。

最後に、体制の変わり目である４月、地域・関係機関へ挨拶に伺いました。「城東特別支援学校はどのような存在であるのか」を実感でき、対話を通じて、さらに多くの機関が「できること（学習フィールドの提供）」を考えてくださっていることに胸が高まりました。

東京都特別支援教育推進計画（第二期）では、「障害のある人々が何らかの形で社会とつながっており、その生きる姿が周囲の人々に様々な形で良い影響を及ぼしている状況を含め、「貢献」と表現している。」と、示されています。

私は、子供たちは決して「受け身」ではなく、主体的な学習活動等を通して、子供たち自身が「共生社会の実現」につながる取組及び発信の一翼を担う存在であると考えます。

「副籍制度」「学校生活支援シート」の活用を通じて、「家庭」「学校」「地域」「子供」が①「思いを共有する」②「共有したことを具現化するためのコミュニケーションを図る」
例え、すぐに実現しなくても、①②の過程で現れた「心の揺れ」がたくさん見られ、共に、互いに、いい影響」を与え合える、学校教育の推進を、そしてコミュニティの確立を目指してまいります。

「危機管理」を軸に、安心・安全な学びを守ります

生活安全ライン主任　田中紗代

昨年度、児童・生徒の安全に関わる事案が発生したことを重く受け止め、二度と同様のことが起きないよう指導・支援の在り方と危機管理体制を改めて点検し、改善を進めております。

本校では、児童・生徒一人ひとりの尊厳と権利を守り、安心・安全で安定した教育環境を整えるために、「令和８年度　都立城東特別支援学校　教職員行動指針」を定め、全教職員で共有し、日々の実践の基準としています。具体的に、

① 一人ひとりをかけがえのない存在として公正に関わること
② 主体性や自己表出・決定・選択する力を育て、自己肯定感を高める教育支援を行うこと
③ 事故防止・トラブル回避・心身の安全確保を徹底すること
④ 信頼関係を土台に教育活動に取り組むこと
⑤ 教職員自身がロールモデルとなる言動を心掛けること
⑥ 児童・生徒の立場に立って自己点検し、専門性を高めること
⑦ 「チーム城東」として情報共有と協力を徹底すること

とりわけ今年度は、③の安全確保を「最優先事項」として位置付け、日常の見守り、環境整備、引継ぎ・情報共有、ヒヤリハットの蓄積と改善、緊急時の組織的な動きの確認を継続的に行います。また、教職員同士が互いの指導を振り返り、気付いた点を見過ごさずに改善する組織づくりを進めます。

学校だけで安全を守りきることはできません。御家庭での体調・睡眠・服薬等の情報や、気になる変化がありましたら、必ず担任・学校までお知らせください。保護者の皆様と連携しながら、危機管理を基本として、児童・生徒が安心して学び、成長できる学校づくりに全力で取り組んでまいります。

学習及び生活指導場面における緊急時対応訓練について

保健給食ライン主任　橋本　由美

毎年新学期の始めに「緊急時対応訓練」を実施しています。

学習や生活指導の場面では、教職員が日々「安全第一」を心がけて指導・支援にあたっていますが、大きな怪我等の緊急事態が起こった際にも、落ち着いて対応できるよう、学年ごとに想定場面を設定し、役割分担（当該児童生徒対応、各所連絡、記録、周囲の児童・生徒の安全確保等）を確認し、シミュレーションをします。

訓練後は振り返りを行い、課題を見直し、より迅速に動けるよう対応と改善につなげています。さらに、必要時の連絡手順や校内の情報共有の流れに加え、即時対応が必要な緊急事態時の EM（エマ―ジェンシー・メディカル）コールの手順についても再確認し、関係教職員が同じ判断基準で行動に移せるようにします。

これからも学校全体で、児童・生徒が安心して過ごせる環境づくりに努めると共に「いざという時」の対応力を高めてまいります。

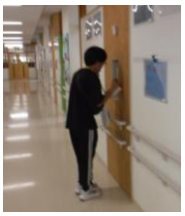
【応急救護訓練の様子】

【児童・生徒対応の様子】

【全体指示・確認の様子】

【保護者連絡の様子】

【EM コールの様子】



【未来後記】　予見・予測する力

副校長　和田　大

今月号では、緊急時における子供たちと教職員の対応力向上の取組について紹介しました。校長は「想定外を想定内にすること」の重要性を述べていますが、これは未来を予見・予測する力を養い、主体性につなげるためです。

経験のない事態を想像することは容易ではありませんが、基礎的な対応力を身に付け、引き出しを増やすため、各種訓練に真摯に取り組んでまいります。

なお、「副籍制度」及び「学校生活支援シート」の活用につきましては、校長が本学校だよりの表面にて触れております。これらは、地域や関係機関との連携を深めていく上で、非常に重要なツールとなります。 本学校だよりと併せて、「副籍制度」及び「学校生活支援シート」の活用について、Classi にてお知らせいたします。